



アメリカの文学作品（詩）を通して、詩と社会との接合点を探る試みをしています。キーワードは「農」です。

略歴

首都大学東京（現・東京都立大学）助教を経て日本工業大学に着任。日工大では基礎英語、リーディングスキル、英会話、上級英語、プレゼンテーションなどの科目を担当。

所属学会など

International Emily Dickinson Society
日本エミリィ・ディキンソン学会
日本アメリカ文学会
日本英文学会

研究紹介

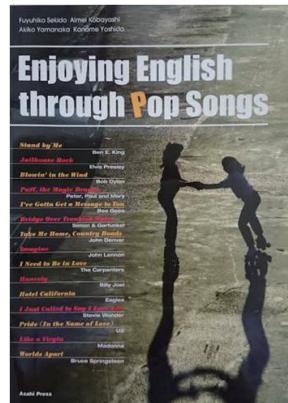
エミリィ・ディキンソンに関する研究



アメリカ合衆国の詩人工エミリィ・ディキンソンを研究しています。彼女は詩を書き進めるうちに自家にこもるようになり、「隠遁詩人」と呼びうる状態になりましたが、実は社会とのつながりを保ち続けながら作品を書いていた痕跡がいろいろと残されています。個人的な行為とみなされがちな詩作、それも「隠遁詩人」が書いていた作品がいかに社会と結びついているのかを、現在は「農」をキーワードにして解き明かす研究を続けています。

エミリィ・ディキンソンに関する論考が収録された複数の共著書（左の写真はその一例）のほかに、大学生向けの教科書も共同執筆しています。

- 『深まりゆくアメリカ文学——源流と展開——』（ミネルヴァ書房、2021）
- 『Step by Step～英語ワークブック～』（学術図書出版、2023）
- 『ソングス&カルチャー——ポップソングで学ぶ初級英語——』（朝日出版、2017）



主な研究（科研費）

- 「詩が生まれる場所——19世紀女性詩人たちの農業詩学」基盤研究(C)、研究代表者、2022～2024年度
- 「農業環境から見るエミリィ・ディキンソン——マサチューセッツ農科大学誘致を中心に」若手研究(B)、研究代表者、2014～2016年度

最近の研究論文

- 「"It's pleasant to be liked by such folks" —エミリィ・ディキンソンと馬屋番」*Emily Dickinson Review* 11 (日本エミリィ・ディキンソン学会、2024)
- 「ディキンソンとクルーソーの「旅」——ホランド夫人への書簡を読む」『アメリカ文学』84 (日本アメリカ文学会東京支部、2023)